

# JIS 慣用色名の使用実態

## — 2007年と2012年の本学調査結果から —

坂上 ちえ子

### 1. はじめに

JIS (Japanese Industrial Standards: 日本工業規格) の「色彩」分野では、色彩に関する用語や表示方法、測定方法などが詳細に規定されており、生産者だけでなく、使用・消費の合理化等にも重要な役割を果たす基準である。しかし、一般の消費者が JIS の細かな規定内容を目にすることは少なく、JIS は生産者側だけに有用なものとなっている。中でも JIS が規定する「色名」については、日常生活で目にする製品の様々な色名から判断して、生産者側と消費者側の両方に正確に認識され、使用されているかに疑問を持たざるを得ない。

JIS とは、工業標準化法に基づいて制定された国家規格で、鋳工業品の品質改善、生産能率の増進、その他生産の合理化、取引の単純公正化及び使用又は消費の合理化を図り、あわせて公共の福祉の増進に寄与することを目的としている。この工業標準化とは、鋳工業品等について全国的に統一し、単純化することをいい、これらが鋳工業生産企業に浸透したことが日本の鋳工業の飛躍的な発展の背景にある。

同時に経済産業省は、常に JIS の制定や改訂を Web で更新し、最新の情報<sup>1)</sup>を提供している。また、JIS 規格について一般消費者を対象として、分かりやすく説明したパンフレットを発刊することで広報活動を行っているが、JIS 規格の目的や概念が簡単に説明されているだけで、色彩に限らず JIS のいずれの分野においても、詳しい規定内容が消費者に普及しているとは言い難い。

JIS 色彩分野の「表示方法」には、まず「JIS Z 8102 物体色の色名」<sup>2)</sup>がある。通産省工業技術院の JIS 色名専門委員会が 1955 年に発足して、工業用色名の統一を検討し、1957 年に ISCC-NBS 色名法を参照して JIS 「色名」が制定された。この「物体色の色名」では、有彩色の基本色名 10、無彩色の基本色名 3、有彩色の明度及び彩度に関する修飾語 11、無彩色の明度に関する修飾語 2、色相に関する修飾語 5、慣用色名 269 が規定され、それぞれ詳細が示されている（現在の規格は 2001 年に改訂）。とくに、系統色名によりにくい場合は用いて良いとされる慣用色名を、色を「使用し消費する」側がこれらの内容をどの程度理解し、使用しているかの現状を把握する先行研究・調査は見られない。

そこで、2007 年に本学学生を対象として、「JIS Z 8102 物体色の色名」に示されている基本色名と慣用色名の使用状況を調査した。さらに、同じ内容の調査を行った 2012 年の結果との比較を通し、JIS 慣用色名の使用実態と認識の程度について、その背景要因とともに検討を行うこととした。

### 2. 方法

#### 2.1. 「JIS Z 8102 物体色の色名」について

「JIS ハンドブック 61 色彩」に示されている「表示方法」のうち、「物体色の色名 (JIS Z 8102)」にある規定内容を要約して以下に列記する。

適用範囲：鋳工業製品の物体色の色名のうち、特に表面色の色名について規定

用語の意味：(1)系統色名－あらゆる色を系統的に分類して表現できるようにした色名  
(2)慣用色名－慣用的な呼び方で表した色名

色名の区別：(1)系統色名－(a)有彩色の系統色名、(b)無彩色の系統色名  
(2)慣用色名

系統色名：系統色名は、基本色名及びそれに修飾語を付けたもの

基本色名：有彩色の基本色名は、付表1に示すもの

無彩色の基本色名：無彩色の基本色名は、付表2に示すものを用いる

基本色名に用いる修飾語：修飾語は、次のように区別する  
(1)有彩色の明度及び彩度に関する修飾語  
(2)無彩色の明度に関する修飾語、(3)色相に関する修飾語

有彩色の明度及び彩度に関する修飾語：  
有彩色の明度及び彩度に関する修飾語は、付表3に示すものを用いる

無彩色の明度に関する修飾語：無彩色の明度に関する修飾語は、無彩色の基本色名の灰色について付表4に示すものを用いる

色相に関する修飾語：色相に関して細分化する必要がある場合は、付表5に示す修飾語を用いてよい  
ただし、原則として、有彩色の明度及び彩度に関する修飾語のうち彩度が低い色を表す、ごくうすい、明るい灰、灰、暗い灰、及びごく暗いの修飾語とは重複して用いない

修飾語の付け方：修飾語を付ける場合は、基本色名の前に有彩色の明度及び彩度に関する修飾語又は無彩色の明度に関する修飾語、色相に関する修飾語の順に付ける

慣用色名：系統色名によりにくい場合は、慣用色名（付表6）を用いてもよい

慣用色名の中で、“だいたい”又は“オレンジ”は、系統色名の黄赤に代えて修飾語（付表3.5）と共に用いることができる

慣用色名の修飾語：慣用色名において必要がある場合は、修飾語を用いても差し支えない

色名末尾の“色”の扱い方：慣用色名が動植物の名称、物質の名称、固有名詞など紛らわしい場合は、色名の末尾に“色”を付けて“いろ”と読むことが望ましい。

また、表6に示す慣用色名で、他の名称と混同するおそれがない場合は、色名末尾の“色”を省略してもよい

## 2.2. 調査色名と色票

2007年、2012年とも同じ調査色名と色票を用いた。上記の通り、「JIS Z 8102 物体色の色名」では、基本色名に、有彩色の「赤」「黄赤」「黄」「黄緑」「緑」「青緑」「青」「青紫」「紫」「赤紫」と無彩色の「白」「灰色」「黒」が定められている。慣用色名と比較、対照させるために、まず、これらの基本色名（Group A）とそれに対応する13の色票を色刺激として選定した。

また、付表5の通りJISには慣用色名として180（言い換えを含めると269）が挙げられており、それらの中から、先に選んだ色刺激の13色票を表現するものと判断した慣用色名を3種類ずつ選定した。その3種類は、色名からは色を連想し難い色名（Group B）、

表1 調査色名

提示 順序	Group	色名	提示 順序	Group	色名
1	B	臙脂色	27	D	バイオレット
2	B	常磐色	28	A	黄赤
3	B	江戸紫	29	A	赤紫
4	B	漆黒	30	B	縹色
5	A	青	31	D	ライラック
6	D	ローズ	32	B	鬱金色
7	C	菖蒲色	33	D	リーフグリーン
8	D	スノーホワイト	34	B	生成色
9	C	紅梅色	35	A	黄
10	C	緑青色	36	A	白
11	D	ピーコックグリーン	37	D	エメラルドグリーン
12	C	墨	38	A	黄緑
13	A	青紫	39	C	芥子色
14	D	オレンジ	40	C	露草色
15	C	牡丹色	41	C	乳白色
16	D	シルバーグレー	42	D	マゼンタ
17	B	代赭色	43	A	灰色
18	B	錆浅葱	44	B	鷓色
19	D	コバルトブルー	45	B	鳩羽色
20	A	赤	46	B	銀ねず
21	A	紫	47	A	緑
22	D	ブロンド	48	A	黒
23	B	躑躅色	49	C	若草色
24	D	アイボリーブラック	50	C	桔梗色
25	C	柿色	51	C	鼠色
26	C	青竹色	52	A	青緑

具体物などを使用し、色の連想が容易な色名 (Group C)、外来語を使用した色名 (Group D)であることを考慮して選んだ。

以上、調査色名とした基本色名 13 と慣用色名 39 は、提示順序と読み方とともに表 1 に示す。また、色刺激とした 13 色票は日本色研事業株式会社製で、PCCS のトーン記号と色相番号、それに対応するマンセル記号は表 2 に示す。

表2 提示色票

色票 No.	PCCS 記号	対応 マンセル記号
No.1	v24	6PR 4.0/12.5
No.2	v2	4R 4.5/14.0
No.3	v4	10R 5.5/14.0
No.4	v8	5Y 8.0/13.0
No.5	v10	3GY 7.0/12.0
No.6	v12	3G 5.5/11.0
No.7	v14	5BG 4.5/10.0
No.8	v18	3PB 3.5/11.5
No.9	v20	9PB 3.5/11.5
No.10	v22	7P 3.5/11.5
No.11	Gy-5.5	N5.5
No.12	W	N9.5
No.13	Bk	N1.5

### 2.3. 調査対象者と方法

対象者は、2007 年、2012 年とも本学の女子学生 (18~19 歳) とした。2007 年は 80 名で、うち 33 名が 1 年次に「色彩学」を受講し、47 名は未受講者であった。2012 年は 40 名で、全員が「色彩学」の受講者であった。

調査方法についても、2007 年、2012 年とも同様の質問内容と手順で行った。質問は 2 種類で、抽出・選定した基本色名及び慣用色名について、質問 1: 認知・使用の実態、質問 2: 認識の状況を質問紙により行なった。質問 1 では、質問紙に 13 の基本色名と 39 の慣用色名をランダムに列記し、それぞれについて、認知と使用の状況を質問した。質問 2 では、質問紙に 1cm×1cm の色票を対比現象を避けて貼付し、それら 13 の色刺激と 13 の基本色名及び 39 の慣用色名とを質問 1 での回答に関係なく対応させた。

調査は 2007 年、2012 年ともに 10 月に行なった。

## 3. 結果と考察

### 3.1. JIS 慣用色名の使用実態

まず、色彩学を受講、未受講であることが、JIS 基本色名と慣用色名の使用に影響を与えるかどうかを 2007 年の調査結果について t-検定 (分散が等しくないと仮定した 2 標本による検定) を用いて確かめた。その結果は、表 3 に示す通りである。

表3 色彩学受講による質問1の回答差：2007年調査

Group	色名	p 値 (両側)	Group	色名	p 値 (両側)
A	赤紫	0.5421	C	牡丹色	0.1510
A	赤	-	C	紅梅色	0.3855
A	黄赤	0.0011 **	C	柿色	0.0396 *
A	黄	-	C	芥子色	0.1908
A	黄緑	-	C	若草色	0.7074
A	緑	-	C	緑青色	0.0669
A	青緑	0.0046 **	C	青竹色	0.0008 **
A	青	-	C	露草色	0.1786
A	青紫	0.0963	C	桔梗色	0.1399
A	紫	-	C	菖蒲色	0.1510
A	白	-	C	乳白色	0.4601
A	灰色	0.3248	C	鼠色	0.4353
A	黒	-	C	墨	0.8326
B	躑躅色	0.4802	D	マゼンタ	0.0000 **
B	臙脂色	0.3067	D	ローズ	0.1386
B	代赭色	0.3248	D	オレンジ	-
B	鬱金色	0.0623	D	ブロンド	0.2474
B	鶺鴒色	0.6654	D	リーフグリーン	0.7548
B	常磐色	0.5053	D	エメラルドグリーン	0.3444
B	錆浅葱	0.5124	D	ビーコックグリーン	0.2207
B	縹色	0.5305	D	コバルトブルー	0.7497
B	鳩羽色	0.5349	D	バイオレット	0.1875
B	江戸紫	0.3717	D	ライラック	0.5466
B	生成色	0.3475	D	スノーホワイト	0.9969
B	銀ねず	0.3431	D	シルバードレー	0.3827
B	漆黒	0.5430	D	アイボリーブラック	0.2096

\*\*:  $p < 0.01$ , \*:  $p < 0.05$ 

基本色名 (Group A) の黄赤と青緑、慣用色名の柿色と青竹色 (ともに Group C)、マゼンタ (Group D) 以外は有意差 ( $p < 0.01$ ,  $p < 0.05$ ) が認められなかった。つまり、調査用に選定した JIS 色名を知っているか、あるいは使用しているかの認知・行動に特定の学習の影響は小さいことが明らかになった。これは、色彩学の内容のなかで色名の割合は小さい<sup>3)</sup>上に、JIS の色名だけを取り上げることがないことも要因として挙げられる。

次に、2007年と2012年の5年間で調査結果が相違するかについても t-検定を行った。その結果は、表4に示す。

慣用色名の江戸紫 (Group B)、若草色、青竹色 (Group C)、マゼンタ、ブロンド、コバルトブルー (Group D) 以外は有意差 ( $p < 0.01$ ,  $p < 0.05$ ) が認められなかった。前述の色彩学受講の結果からも、学習経験と調査時期のいずれも JIS 色名の使用、認知に影響しないことから、52色名全体の使用実態は2012年の調査結果 (表5-1) で示し、適宜2007年の結果も加えて考察する。有意差が認められた2007年の使用実態についての結果は表5-2

表4 調査時期による質問1の回答差：2007年，2012年調査

Group	色名	p 値（両側）	Group	色名	p 値（両側）
A	赤紫	0.2340	C	牡丹色	0.7504
A	赤	-	C	紅梅色	0.2681
A	黄赤	0.7525	C	柿色	0.0721
A	黄	0.3234	C	芥子色	0.6841
A	黄緑	0.3234	C	若草色	0.0126 *
A	緑	0.3235	C	緑青色	1.0000
A	青緑	0.7679	C	青竹色	0.0006 **
A	青	0.3235	C	露草色	0.2578
A	青紫	0.5458	C	桔梗色	0.0712
A	紫	0.3235	C	菖蒲色	0.1569
A	白	-	C	乳白色	0.6449
A	灰色	0.8553	C	鼠色	1.0000
A	黒	0.3235	C	墨	0.1596
B	躑躅色	0.7272	D	マゼンタ	0.0023 **
B	臙脂色	0.7804	D	ローズ	0.0700
B	代赭色	1.0000	D	オレンジ	-
B	鬱金色	0.9779	D	ブロンド	0.0334 *
B	鶺鴒色	0.1443	D	リーフグリーン	0.2104
B	常磐色	1.0000	D	エメラルドグリーン	0.6244
B	錆浅葱	0.3626	D	ビーコックグリーン	0.0628
B	縹色	0.4853	D	コバルトブルー	0.0231 *
B	鳩羽色	0.9629	D	バイオレット	0.0853
B	江戸紫	0.0006 **	D	ライラック	0.1563
B	生成色	0.1414	D	スノーホワイト	0.4536
B	銀ねず	0.9455	D	シルバーグレー	0.3809
B	漆黒	0.1498	D	アイボリーブラック	0.5997

\*\*：p<.01, \*：p<.05

の通りである。

基本色名（Group A）は、2007年も2012年も9色名を95%以上がa（回答a：色名を認知し、使用している）と回答し、対象者ほぼ全員が認知し使用していた。赤紫と青緑、青紫は、回答b（色名を使用していないが、認知している）を答えた者が10%前後いた。黄赤は、回答c（色名を認知せず使用もない）を半数以上が回答し、認知・使用割合が低かった。また、前述の通り、これらについては5年間に有意差のある変動は認められなかった。多少の差はあるが、黄赤以外のJIS基本色名は調査対象者の多くに認知・使用されていた。平成元年以前の学習指導要領<sup>4)</sup>では、小学校の図画工作では基本的な色を学ぶことが示されていたが、平成元年以降<sup>5),6)</sup>はこれが削除された。しかし、日常の生活でも最低限必要とされるこれらの基本色名は、学校での学習無しでも習得されていることが明らかになった。

慣用色名については、色名から色を連想し難いと予測したGroup Bの多くは、認知の割合が低かった。とくに、代赭色、鶺鴒色、常磐色、錆浅葱、縹色、鳩羽色、銀ねずは対象者

表5-1 質問1：2012年調査結果 [n=40,(%)]

Group	色名	回答 a	回答 b	回答 c	Group	色名	回答 a	回答 b	回答 c
A	赤紫	92.5	7.5	0.0	C	牡丹色	10.0	65.0	25.0
A	赤	100.0	0.0	0.0	C	紅梅色	0.0	55.0	45.0
A	黄赤	22.5	57.5	20.0	C	柿色	2.5	60.0	37.5
A	黄	97.5	2.5	0.0	C	芥子色	52.5	35.0	12.5
A	黄緑	97.5	2.5	0.0	C	若草色	20.0	50.0	30.0
A	緑	97.5	2.5	0.0	C	緑青色	7.5	32.5	60.0
A	青緑	85.0	15.0	0.0	C	青竹色	0.0	27.5	72.5
A	青	97.5	2.5	0.0	C	露草色	0.0	30.0	70.0
A	青紫	87.5	12.5	0.0	C	桔梗色	5.0	35.0	60.0
A	紫	97.5	2.5	0.0	C	菖蒲色	2.5	32.5	65.0
A	白	97.5	2.5	0.0	C	乳白色	25.0	52.5	22.5
A	灰色	100.0	0.0	0.0	C	鼠色	75.0	25.0	0.0
A	黒	97.5	2.5	0.0	C	墨	45.0	50.0	5.0
B	躑躅色	2.5	45.0	52.5	D	マゼンタ	55.0	35.0	10.0
B	臙脂色	35.0	47.5	17.5	D	ローズ	52.5	47.5	0.0
B	代赭色	0.0	2.5	97.5	D	オレンジ	100.0	0.0	0.0
B	鬱金色	7.5	45.0	47.5	D	ブロンド	45.0	37.5	17.5
B	鶉色	0.0	2.5	97.5	D	リーフグリーン	7.5	45.0	47.5
B	常磐色	0.0	17.5	82.5	D	エメラルドグリーン	72.5	25.0	2.5
B	錆浅葱	0.0	2.5	97.5	D	ピーコックグリーン	0.0	5.0	95.0
B	縹色	5.0	7.5	87.5	D	コバルトブルー	27.5	67.5	5.0
B	鳩羽色	2.5	5.0	92.5	D	バイオレット	55.0	42.5	2.5
B	江戸紫	2.5	32.5	65.0	D	ライラック	0.0	5.0	95.0
B	生成色	20.0	22.5	57.5	D	スノーホワイト	25.0	55.0	20.0
B	銀ねず	0.0	30.0	70.0	D	シルバーグレー	22.5	55.0	22.5
B	漆黒	45.0	50.0	5.0	D	アイボリーブラック	5.0	30.0	65.0

回答 a：色名を認知し使用している，回答 b：使用していないが認知している，回答 c：認知もせず使用もない

の7割以上に認知も使用もされていなかった。江戸紫だけは5年間で変化が現れ、この慣用色名を認知も使用もしないと答えた者が30%も増え、有意差 ( $p<0.01$ ) も認められた。おそらく、対象とした若年層にとって、このグループの色名は読むことも困難であると思われる。つまり、このように読むことができない言葉は色名（正確に色を伝達する言葉）として選択されにくいことがこの調査結果から明らかになった。

具体物などを使用し色の連想が容易であったとした Group C の色名は、Group B よりは認知度が高かったが、認知し使用しているとした回答が2007年も2012年も50%を超えた色名は、芥子色、鼠色だけであった。緑青色や露草色、菖蒲色は具体物が充てられた色名であるにもかかわらず、認知も使用もしていないという回答が60%以上あった。さらに、青竹色は5年前より知らない者が20%増えた ( $p<0.01$ )。JIS 慣用色名の中では日常生活で目にする頻度が多い言葉を用いている判断し、このグループの色名を調査色名として選択したが、色名としてはあまり使用されていないことが調査結果から示された。

表5-2 質問1：2007年調査結果 [n=80,%]

Group	色名	回答 a	回答 b	回答 c	Group	色名	回答 a	回答 b	回答 c
B	江戸紫	12.5	52.5	35.0	D	マゼンタ	22.5	28.8	48.8
C	若草色	36.3	55.0	8.8	D	ブロンド	65.0	27.5	7.5
C	青竹色	11.3	33.8	55.0	D	コバルトブルー	47.5	51.3	1.3

回答 a：色名を認知し使用している、回答 b：使用していないが認知している、回答 c：認知もせず使用もない

外来語使用の Group D は、認知・使用の割合が高い色名と低い色名に分かれた。ローズ、オレンジ、エメラルドグリーンは前者、リーフグリーン、ピーコックグリーン、ライラック、アイボリーブラックは後者であった。他には、ブロンドとコバルトブルー 5 年前より回答 a の割合が 20%減少した ( $p < 0.05$ ) のに対し、マゼンタは 2007 年より 2012 年の方が回答 a の割合が 30%増加した ( $p < 0.01$ )。このグループは外来語を使用し、かつ具体物を

表6 色彩学受講による質問2の回答差：2007年調査

Group	色名	p 値 (両側)	Group	色名	p 値 (両側)
A	赤紫	0.0045 **	C	牡丹色	0.2820
A	赤	0.3248	C	紅梅色	0.0109 *
A	黄赤	0.4119	C	柿色	0.3227
A	黄	-	C	芥子色	0.1711
A	黄緑	0.8082	C	若草色	0.4903
A	緑	0.8669	C	緑青色	0.1191
A	青緑	0.2136	C	青竹色	0.5454
A	青	-	C	露草色	0.8401
A	青紫	0.2299	C	桔梗色	0.0938
A	紫	0.8731	C	菖蒲色	0.4740
A	白	-	C	乳白色	0.3227
A	灰色	0.3248	C	鼠色	-
A	黒	-	C	墨	0.8082
B	躑躅色	0.0260 *	D	マゼンタ	0.0000 **
B	臙脂色	0.6909	D	ローズ	0.0878
B	代赭色	0.4683	D	オレンジ	-
B	鬱金色	0.2353	D	ブロンド	0.9894
B	鶺鴒色	0.8983	D	リーフグリーン	0.8235
B	常磐色	0.5077	D	エメラルドグリーン	0.7690
B	錆浅葱	0.8160	D	ピーコックグリーン	0.3128
B	縹色	0.3512	D	コバルトブルー	0.1368
B	鳩羽色	0.7432	D	バイオレット	0.4004
B	江戸紫	0.9876	D	ライラック	0.3793
B	生成色	0.1561	D	スノーホワイト	-
B	銀ねず	0.3248	D	シルバーグレー	0.3225
B	漆黒	0.3248	D	アイボリーブラック	0.2086

\*\* :  $p < .01$ , \* :  $p < .05$



用いた色名である。さらに、エメラルドグリーン、リーフグリーン、ピーコックグリーンのようにその具体物で微妙な色の違いを示しているにも関わらず、その相違に関心が示されず、色名としての使用もされていないことが調査結果から読み取れる。

### 3.2. JIS 慣用色名の認識状況

JIS 基本色名と JIS 慣用色名の認識についても、色彩学を受講、未受講であることが、回答差の要因となるかを 2007 年の調査結果に t 検定を用いて確認した。その結果は、表 6 に示す通りである。

基本色名 (Group A) の赤紫、慣用色名の躑躅色 (Group B)、紅梅色 (Group C)、マゼンタ (Group D) 以外は有意差 ( $p < 0.01$ ,  $p < 0.05$ ) が認められなかった。調査用に選定した JIS 色名の認識状況についても色彩学の学習からは影響を受けることは少ないことが明らかになった。

表7 調査時期による質問2の回答差：2007年，2012年調査

Group	色名	p 値 (両側)	Group	色名	p 値 (両側)
A	赤紫	0.4218	C	牡丹色	0.9379
A	赤	0.6564	C	紅梅色	0.2068
A	黄赤	0.3394	C	柿色	0.3204
A	黄	-	C	芥子色	0.0110
A	黄緑	0.1586	C	若草色	0.6549
A	緑	0.3624	C	緑青色	0.2117
A	青緑	0.0687	C	青竹色	0.7508
A	青	-	C	露草色	0.9989
A	青紫	0.0945	C	桔梗色	0.0778
A	紫	0.4743	C	菖蒲色	0.3708
A	白	-	C	乳白色	0.4666
A	灰色	0.3204	C	鼠色	-
A	黒	-	C	墨	0.1488
B	躑躅色	0.3389	D	マゼンタ	0.0221 *
B	臙脂色	0.7586	D	ローズ	0.2913
B	代赭色	0.2574	D	オレンジ	-
B	鬱金色	0.6777	D	ブロンド	0.7643
B	鶺鴒色	0.3141	D	リーフグリーン	0.8790
B	常磐色	0.0827	D	エメラルドグリーン	0.4423
B	錆浅葱	0.0939	D	ピーコックグリーン	0.0741
B	縹色	0.7702	D	コバルトブルー	0.0546
B	鳩羽色	0.3216	D	バイオレット	0.4681
B	江戸紫	0.8719	D	ライラック	0.0546
B	生成色	0.0163 *	D	スノーホワイト	-
B	銀ねず	0.3204	D	シルバーグレー	0.3204
B	漆黒	0.3204	D	アイボリーブラック	0.5907

\*\* :  $p < 0.01$ , \* :  $p < 0.05$

使用状況と同様、2007年と2012年の5年間で調査結果が相違するかについてもt-検定を行った。その結果は、表7に示す。

慣用色名の生成色（Group B）とマゼンタ（Group D）以外は有意差（ $p < 0.05$ ）が認められなかった。JIS色名の使用結果以上に、色名の正しい認識に調査年次の相違は影響しないことが明らかになった。JIS色名の使用実態結果と同様、JIS色名の認識状況にも学習

表8-1 質問2：2012年調査結果 [n=40,%]

Group	色名	正解	不正解	Group	色名	正解	不正解
A	赤紫	75.0	25.0	C	牡丹色	22.5	77.5
A	赤	97.5	2.5	C	紅梅色	67.5	32.5
A	黄赤	82.5	17.5	C	柿色	100.0	0.0
A	黄	100.0	0.0	C	芥子色	87.5	12.5
A	黄緑	100.0	0.0	C	若草色	60.0	40.0
A	緑	95.0	5.0	C	緑青色	5.0	95.0
A	青緑	97.5	2.5	C	青竹色	40.0	60.0
A	青	100.0	0.0	C	露草色	2.5	97.5
A	青紫	82.5	17.5	C	桔梗色	22.5	77.5
A	紫	70.0	30.0	C	菖蒲色	20.0	80.0
A	白	100.0	0.0	C	乳白色	97.5	2.5
A	灰色	100.0	0.0	C	鼠色	100.0	0.0
A	黒	100.0	0.0	C	墨	90.0	10.0
B	躑躅色	20.0	80.0	D	マゼンタ	27.5	72.5
B	臙脂色	12.5	87.5	D	ローズ	55.0	45.0
B	代赭色	30.0	70.0	D	オレンジ	100.0	0.0
B	鬱金色	67.5	32.5	D	ブロンド	55.0	45.0
B	鶉色	2.5	97.5	D	リーフグリーン	47.5	52.5
B	常磐色	20.0	80.0	D	エメラルドグリーン	20.0	80.0
B	錆浅葱	27.5	72.5	D	ピーコックグリーン	17.5	82.5
B	縹色	5.0	95.0	D	コバルトブルー	65.0	35.0
B	鳩羽色	2.5	97.5	D	バイオレット	12.5	87.5
B	江戸紫	50.0	50.0	D	ライラック	12.5	87.5
B	生成色	20.0	80.0	D	スノーホワイト	100.0	0.0
B	銀ねず	100.0	0.0	D	シルバーグレー	100.0	0.0
B	漆黒	100.0	0.0	D	アイボリーブラック	85.0	15.0

表8-2 質問2：2007年調査結果 [n=80,%]

Group	色名	正解	不正解	Group	色名	正解	不正解
B	生成色	3.8	96.2	D	マゼンタ	28.8	71.2

経験と調査時期いずれも影響しないことから、52色名全体の使用実態は2012年の調査結果（表8-1）で示し、2007年の結果も加えて考察する。有意差が認められた2007年の結果は表8-2の通りである。表8-1と8-2いずれも、色名と色票を正しく一致させた回答を正解、一致していなかった回答を不正解とした。

表9-1 質問2-回答内容：2012年調査結果 [n=40]

Group	色名	回答内容	Group	色名	回答内容
A	赤紫	赤紫(30), 紫(9), 青紫(1)	C	牡丹色	赤(21), 赤紫(9), 黄赤(5), 黄(3), 紫(1), 白(1)
A	赤	赤(39), 赤紫(1)	C	紅梅色	赤(27), 赤紫(12), 黄赤(1)
A	黄赤	黄赤(33), 赤(4), 黄(3)	C	柿色	黄赤(40)
A	黄	黄(40)	C	芥子色	黄(35), 黄赤(5)
A	黄緑	黄緑(40)	C	若草色	黄緑(24), 緑(13), 青緑(2), 青紫(1)
A	緑	緑(38), 青緑(2)	C	緑青色	青緑(37), 緑(2), 黄緑(1)
A	青緑	青緑(39), 緑(1)	C	青竹色	青緑(16), 緑(13), 黄緑(8), 青(3)
A	青	青(40)	C	露草色	黄緑(16), 緑(15), 青緑(6), 青(1), 青紫(1), 紫(1)
A	青紫	青紫(33), 青(3), 青緑(2), 赤紫(1), 紫(1)	C	桔梗色	青紫(9), 黄赤(8), 紫(7), 黄(4), 黄緑(4), 赤(3), 緑(3), 青(1), 白(1)
A	紫	紫(28), 青紫(11), 灰色(1)	C	菖蒲色	青紫(8), 紫(8), 黄赤(5), 赤紫(4), 黄(4), 青(3), 赤(2), 緑(2), 青緑(2), 黄緑(1), 灰色(1)
A	白	白(40)	C	乳白色	白(39), 灰色(1)
A	灰色	灰色(40)	C	鼠色	灰色(40)
A	黒	黒(40)	C	墨	黒(36), 灰色(4)
B	薔躑躅色	赤(17), 赤紫(8), 黄赤(5), 黄(4), 青紫(3), 紫(3)	D	マゼンタ	赤(18), 赤紫(11), 黄赤(3), 青(3), 青紫(2), 青緑(1), 紫(1), 白(1)
B	臙脂色	黄赤(18), 赤紫(12), 赤(5), 黄(2), 青(1), 青紫(1), 灰色(1)	D	ローズ	赤(22), 赤紫(17), 青紫(1)
B	代赭色	黄赤(12), 赤(10), 黄(6), 灰色(4), 赤紫(2), 黄緑(2), 青(2), 青緑(1), 青紫(1)	D	オレンジ	黄赤(40)
B	鬱金色	黄(27), 黄赤(13)	D	ブロンド	黄(22), 黄赤(10), 灰色(3), 赤紫(1), 青緑(1), 青(1), 青紫(1), 白(1)
B	鶺鴒色	黄(10), 黄赤(8), 灰色(7), 黒(4), 青紫(3), 赤(2), 紫(2), 赤紫(1), 黄緑(1), 青緑(1), 白(1)	D	リーフグリーン	黄緑(19), 緑(19), 青緑(2)
B	常磐色	緑(8), 黄赤(6), 黄(4), 青(4), 赤紫(3), 赤(3), 黄緑(3), 青紫(3), 青緑(2), 灰色(2), 紫(1), 黒(1)	D	エメラルドグリーン	青緑(30), 緑(8), 黄緑(2)
B	錆浅葱	青緑(11), 緑(8), 灰色(7), 黄赤(4), 青(4), 赤(2), 黄(1), 黄緑(1), 青紫(1), 紫(1)	D	ピーコックグリーン	青(30), 青緑(7), 青紫(2), 赤紫(1)
B	縹色	黄赤(14), 黄(7), 緑(5), 黄緑(3), 青紫(3), 青緑(2), 青(2), 赤紫(1), 赤(1), 紫(1), 灰色(1)	D	コバルトブルー	青(26), 青緑(13), 青紫(1)
B	鳩羽色	灰色(35), 黄緑(1), 青紫(1), 紫(1), 白(1), 黒(1)	D	バイオレット	紫(21), 赤紫(6), 赤(5), 青紫(5), 黄赤(2), 黄(1)
B	江戸紫	紫(20), 青紫(17), 赤紫(3)	D	ライラック	黄緑(9), 紫(5), 黄(5), 青緑(4), 黄赤(3), 緑(3), 青(3), 灰色(3), 青紫(2), 白(2), 赤(1)
B	生成色	黄(20), 白(8), 黄緑(6), 黄赤(2), 灰色(2), 緑(1), 青緑(1)	D	スノーホワイト	白(40)
B	銀ねず	灰色(40)	D	シルバークレー	灰色(40)
B	漆黒	黒(40)	D	アイボリーブラック	黒(34), 青(4), 青紫(1), 灰色(1)

赤紫：色票 No.1, 赤：No.2, 黄赤：No.3, 黄：No.4, 黄緑：No.5, 緑：No.6,  
 青緑：No.7, 青：No.8, 青紫：No.9, 紫：No.10, 灰色：No.11, 白：No.12, 黒：No.13  
 ( ) 内の数字は回答人数

基本色名（Group A）は10色名の正解率が80%を超え、正しく認識している割合が高かったが、赤紫と紫は正解率が8割以下であった。以前の別調査<sup>7)</sup>でも、紫を赤紫、青紫を紫、赤紫を赤とした、色相が隣の色相にずれる調査回答があり、紫に関しては混乱がみられることを示唆したが、今回の調査でも同様の結果が現れた。しかし、それ以外は色名と色票を一致させることができおり、前述の使用実態も含め、JIS基本色名は色の伝達方法としての色名の役割が果たされていることが示された。

表9-2 質問2-回答内容：2007年調査結果 [n=80]

Group	色名	回答内容	Group	色名	回答内容
B	生成色	黄(50), 黄緑(14), 緑(3), 白(3), 黄赤(3), 青緑(2), 青(1), 灰色(1), N.A.(3)	D	マゼンタ	赤紫(23), 赤(17), 黄赤(7), 青紫(7), 青(6), 紫(6), 灰色(6), 白(1), 黒(1), N.A.(2)

赤紫：色票 No.1, 赤：No.2, 黄赤：No.3, 黄：No.4, 黄緑：No.5, 緑：No.6,  
 青緑：No.7, 青：No.8, 青紫：No.9, 紫：No.10, 灰色：No.11, 白：No.12, 黒：No.13  
 ( ) 内の数字は回答人数

Group B の慣用色名のうち、正解率が80%を超えたのは、銀ねずと漆黒の2色名で、50%以上も鬱金色と江戸紫の2色名だけであった。質問1の結果と併せると、2007年も2012年もGroup Bの色名は多くが使用も正しい認識もされていないことが明らかになった。質問2の回答内容をまとめた結果は表9-1（2012年調査結果）と表9-2（有意差があった2007年の調査結果）に示す。実際の回答は色票を選択したものだが、この表では理解が容易なように、提示色票に対応した色名を記載した。下線は正解とした色票の色名である。Group Aの基本色名は、既述の通り赤紫と紫、青紫の認識に混乱が現れたが、それ以外は正解が多く、不正解でも隣接色相が選択されていた。しかし、Group Bの慣用色名では、前述の正解率50%以上の4色名以外は、一つの色名に様々な色票が選択された。躑躅色や臙脂色は漢字の読み方が分かりにくい、躑躅色は平安時代から日本で使われたとされる色名<sup>8)</sup>であるため、赤や赤紫を容易に指すことができると予測していたが、黄赤（色票 No.3）とする回答も少なくなかった。鶺鴒色は小鳥のひわの羽を表す伝統的な色名だが、正解したのは1名であった。縹色も「延喜式」にも現れた平安時代からの色名である。また、かつて日本人に身近であった藍だけで染める純粋な青色であるが、正解したのは2名であった。このように、Group Bの慣用色名は日本で長い間使われてきた色名であるが、調査対象の若年層にはなじみのない色名であることが示された。

Group Cの慣用色名では、緑青色や露草色のように認知・使用率も低く正解率も低い色名もあったが、紅梅色や柿色、乳白色のように認知・使用の割合は低いにもかかわらず、色名から類推しやすいため正解率の高い色名があり、それは2007年も2012年も同じ傾向が現れた。桔梗色や菖蒲色はいずれも花の名前で、普通の生活でも聞きすぎる機会が多い言葉であるが、色とは結び付きにくい色名であることが明らかになった。緑青や露草は日常で接する頻度が低いため、色名にある「青」や「草」に惑わされて、緑青や露草とは異なる色に誘導される色名であるという結果となった。

Group Dの慣用色名は、色名から色を連想し易く、正解率が高いと予想したが、オレンジやシルバーグレーのように正解率が100%の色名もあれば、20%以下も4色名あった。認知・使用の結果と同様、リーフグリーンとエメラルドグリーン、ピーコックグリーンは

認識に混乱が見られた。前述の通り、リーフグリーンは色名としては使用されていなかったが、若葉の色から連想が容易だったことから正解の色票を指すことができていた。それに対し、エメラルドグリーンは色名使用の割合は高かったが、緑を表す色名だと正確に認識できていたのは8名であった。ライラックはその植物が身近で正確に色を認識できると予測したが、実物は北海道のような寒い地方でしか目にすることができないため、想像するしかない花の名前からは、色の認識の混乱は顕著であった。

#### 4. まとめ

269あるJIS慣用色名の中から39色名を抽出し、さらに比較のために13の基本色名を合せ、52のJIS色名について、本学女子学生を対象にその使用実態と認識状況を調査した。大きくまとめると、基本色名は色名として使用され、伝達したい色とも正確に一致させることができていた。それに対し、慣用色名は色名として使用されていないものも多く、色と正確に結び付けることも困難な色名が多かった。

それでは、鋳工業生産企業の色名使用の実態はどうであるかという疑問が出てくる。企業内で色を指定する際の色名使用ではなく、消費者に提示する際の色名使用には一つの特徴が見られる。それは、色名は補助的な役割を担っているということである。例えば、カタログやWebによる販売では、写真で商品が紹介されているため、色を示す色名は微妙な色差を表現する必要はなく、写真の色を確認できるほどのおおよその色の範囲を示していればよい。色名の言葉のみで消費者にその色を紹介し、販売することは稀である。さらに、企業が消費者に提示する色名には、いくつかの特徴がある。調べた範囲では、ほぼ全ての商品の色名にはカタカナが使用されていた。加えて、そのカタカナによる色名は基本色名か基本色名をベースにした色名であった。つまり、レッドやブルー、パールホワイト、ライトグレーなどである。他にも基本色名ではないが、ダークブラウンやライトピンクのように、多くの消費者が理解できると考えられるカタカナを使用した色名が用いられていた。自動車のように高額でイメージを重視する商品においては、シャンパンゴールドやキャンディホワイトなどイメージが一致する物を加えたカタカナ色名で表現している使用実態も見られた。

以上からは、「系統色名（基本色名+修飾語）によりにくい場合は用いて良い」とされているJIS慣用色名の役割には疑問が残る。今回調査対象とした若年層の女子学生には、使用されておらず、意味すら理解できないにもかかわらずJIS慣用色名は改訂もなく採用され続けている。企業側もその実態は把握しており、JIS基本色をカタカナ表記によって消費者に色を伝達することが一般的となっている。

ただ、今回の調査対象者は若年層であった。高齢者を対象に調査をすれば、異なった結果が現れることは予想できる。また、「3.2. 結果」にも記述したが、平安時代から使われ続けている色名がJIS慣用色名には含まれている。慣用色名は、「文化の索引」と言われることもある。それぞれの時代や社会、言語の中で一定の文化的な共有あり、その文化や社会に生活している人々皆が見知っている身近な事象から名付けられたのが慣用色名であるとされている。実体と切り離されて色名だけが残された現象や物もあり、若年層ほど慣用色名が使用されなくなってきたが、視点を変えて、伝統色名として色彩学などの学習で由来を交えながら取り上げて理解させ、伝承していくべき色名ではないかと考える。

なお、本報告の一部は、2007年と2012年の日本色彩学会関西支部九州色彩ネットワーク「研究会 in 福岡<sup>9),10)</sup>」において発表したものである。

#### 引用文献

- 1) <http://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun/jis/index.html>
- 2) 日本規格協会編：『JIS ハンドブック 61 色彩』、日本規格協会、pp.123-141（2001）
- 3) 大井義雄・川崎秀昭：『カラーコーディネーター入門 色彩』、日本色研事業（株）、pp.76-81（平成8年）
- 4) 文部省：『小学校指導書 図画工作編』、文部省、p.33（昭和58年）
- 5) 文部省：『小学校指導書 図画工作編』、文部省、p.33（平成元年）
- 6) 文部省：『小学校学習指導要領解説 図画工作編』、文部省、p.28（平成11年）
- 7) 坂上ちえ子・瀬戸房子：「色名使用の実態と被服着用嗜好色に関する研究」、鹿児島短紀要、pp.1-11（2001）
- 8) 日本色彩研究所編：『色彩ワンポイント4色の表し方と使い方』、日本規格協会、p.17（1993）
- 9) 日本色彩学会関西支部九州色彩ネットワーク：『研究会 in 福岡 2007 概要集』、pp.21-22（2007）
- 10) 日本色彩学会関西支部九州色彩ネットワーク：『研究会 in 福岡 2012 予稿集』、pp.14-15（2012）

付表1 有彩色の基本色名

基本色名	読み方	略号(参考)	基本色名	読み方	略号(参考)
赤	あか	R	青緑	あおみどり	C
黄赤	きあか	O	青	あお	B
黄	き	Y	青紫	あおむらさき	V
黄緑	きみどり	L	紫	むらさき	P
緑	みどり	G	赤紫	あかむらさき	M

付表2 無彩色の基本色名

基本色名	読み方	略号(参考)
白	しろ	W
灰色	はいいろ	N
黒	くろ	S

付表3 有彩色の明度及び彩度に関する修飾語

基本色名	読み方	略号(参考)	基本色名	読み方	略号(参考)
あざやかな		vv	ごくうすい		vp
明るい	あかるい	lt	明るい灰	あかるいはい	lg
こい		dp	灰	はい	mg
うすい		pl	暗い灰	くらいはい	dg
くすんだ		dl	ごく暗い	ごくくらい	vd
暗い	くらい	dk			

付表4 無彩色の明度に関する修飾語

修飾語	読み方	略号(参考)
明るい	あかるい	lt
暗い	くらい	dk

付表5 色相に関する修飾語

修飾語	読み方	適用する基本色名	略号(参考)
赤みの	あかみの	紫, 黄, 白, 灰色, 黒	r
黄みの	きみの	赤, 緑, 白, 灰色, 黒	y
緑みの	みどりみの	黄, 青, 白, 灰色, 黒	g
青みの	あおみの	緑, 紫, 白, 灰色, 黒	b
紫みの	むらさきみの	青, 赤, 白, 灰色, 黒	p

付表6 慣用色名

慣用色名	対応する系統色名 による表示	代表的な色の三属性 による表示(参考)	慣用色名	対応する系統色名 による表示	代表的な色の三属性 による表示(参考)
サールドローズ	くすんだ赤	1R 6/6.5	草色	暗い黄緑	5GY 5/5
ローズ	あざやかな赤	1R 5/4	若葉色	くすんだ黄緑	7GY 7.5/4.5
ストロベリー	あざやかな赤	1R 4/4	松葉色	暗い黄緑	7.5GY 5/4
さんご(珊瑚)色	明るい赤	2.5R 7/1	白緑(びやくろく)	ごくうすい緑	2.5G 8.5/2.5
ピンク	うすい赤	2.5R 7/7	とさわ(常盤)色	くすんだ緑	3G 4.5/7
桃色	くすんだ赤	2.5R 6.5/8	コバルトグリーン	明るい緑	4G 7/9
紅梅色	くすんだ赤	2.5R 6.5/7.5	エメラルドグリーン	緑	4G 6/8
ポルドー	暗い灰赤	2.5R 2.5/3	緑青(ろくしょう)色	くすんだ緑	4G 5/4.5
紅(べに)色	あざやかな赤	3R 4/4	マラカイトグリーン	こい緑	4G 4.5/9
ベビーピンク	うすい赤	4R 8.5/4	深緑(ふかみどり)	こい緑	5G 3/7
シグナルレッド	あざやかな赤	4R 4.5/4	ポトルグリーン	ごく暗い緑	5G 2.5/3
カーミン(又はカーマイン)	あざやかな赤	4R 4/4	青磁色	くすんだ青みの緑	7.5G 6.5/4
えんじ(鯉脂)	赤	4R 4/1	ビリジアン	くすんだ青みの緑	8G 4/6
すおう(蘇芳)	くすんだ赤	4R 4/7	青竹色	くすんだ青緑	2.5BG 5/6.5
あかね(茜)色	こい赤	4R 3.5/1	鉄色	ごく暗い青緑	2.5BG 2.5/2.5
マールン	暗い赤	5R 2.5/6	ピーコックグリーン	青緑	7.5BG 4.5/9
朱色(又はバーミリオン)	あざやかな黄みの赤	6R 5.5/4	ナイルブルー	くすんだ青緑	10BG 5.5/5
スカーレット	あざやかな黄みの赤	7R 5/4	さびあざき(錆濁惹)	灰青緑	10BG 5.5/3
紅赤	あざやかな黄みの赤	7R 5/4	ピーコックブルー	こい青緑	10BG 4/8.5
鉛丹(えんたん)色	黄みの赤	7.5R 5/12	新梅色	くすんだ緑みの青	2.5B 6.5/5.5
サーモンピンク	うすい黄みの赤	8R 7.5/7.5	あざき(濁惹)	緑みの青	2.5B 5/8
あずき(小豆)色	くすんだ黄みの赤	8R 4.5/4.5	納戸(なんど)色	くすんだ緑みの青	4B 4/6
べんがら(紅殻, 弁柄)	暗い黄みの赤	8R 3.5/7	ターコイズブルー	緑みの青	5B 6/8
えび(蝦)茶	暗い黄みの赤	8R 3/4.5	シアン	緑みの青	5B 4/8.5
とび(鳶)色	暗い灰赤	8R 3/2	マリンプルー	こい緑みの青	5B 3/7
金赤	あざやかな黄赤	9R 5.5/4	水色	うすい緑みの青	6B 8/4
赤さび(あか錆)色	暗い黄赤	9R 3.5/8.5	あいねずみ(藍鼠)	暗い灰青	7.5B 4.5/2.5
かき(柿)色	黄赤	10R 5.5/12	空色(又はスカイブルー)	明るい青	9B 7.5/5.5
につけい(肉桂)色	くすんだ黄赤	10R 5.5/6	セルリアンブルー	青	9B 4.5/9
かは(梅)色	こい黄赤	10R 4.5/11	ベビーブルー	うすい青	10B 7.5/3
バートンシェンナ	くすんだ黄赤	10R 4.5/7.5	サックスブルー	くすんだ青	1PB 5/4.5
れんが(煉瓦)色	暗い黄赤	10R 4/7	あい(藍)色	くすんだ青	2PB 3/5
さび(錆)色	暗い灰黄赤	10R 3/3.5	濃いあい[こいあい(藍)]	こい青	2PB 2/4
チョコレート色	暗い灰黄赤	10R 2.5/2.5	霧草(つゆぐさ)色	青	3PB 5/11
ココア色	暗い黄赤	2YR 3.5/4	コバルトブルー	青	3PB 4/10
くり(栗)色	暗い黄赤	2YR 3.5/4	はなだ(纏)色	くすんだ青	3PB 4/7.5
たいしゃ(代赭)色	くすんだ黄赤	2.5YR 5/8.5	紺青(こんじょう)	暗い灰青	5PB 3/4
黒茶	ごく暗い黄赤	2.5YR 2/1.5	ミッドナイトブルー	ごく暗い紫みの青	5PB 1.5/2
ピーチ	明るい灰黄赤	3YR 8/3.5	るり(瑠璃)色	紫みの青	6PB 3.5/11
らくだ色	くすんだ黄赤	4YR 5.5/6	紺(又はノービーブルー)	暗い紫みの青	6PB 2.5/4
肌色	うすい黄赤	5YR 8/5	群青(こんじょう)色	紫みの青	7.5PB 3.5/11
だいたい(又はオレンジ)	黄赤	5YR 6.5/13	鉄紺	ごく暗い紫みの青	7.5PB 1.5/2
茶色(又はブラウン)	暗い黄赤	5YR 3.5/4	藤納戸(ふじなんど)	青紫	9PB 4.5/7.5
魚茶(又はバートンアンバー)	暗い灰黄赤	5YR 3/2	ききょう(桔梗)色	あざやかな青紫	9PB 3.5/13
あんず(杏)色	くすんだ黄赤	6YR 7/6	紺あい(藍)	こい青紫	9PB 2.5/9.5
みかん(蜜柑)色	黄赤	6YR 6.5/13	藤(ふじ)色	くすんだ青紫	10PB 6.5/6.5
タン	くすんだ黄赤	6YR 5/6	パンジー	こい青紫	1P 2.5/10
かつ(鰯)色	暗い黄赤	6YR 3/7	すみれ(重)色(又はバイオレット)	青紫	2.5P 4/11
コルク色	くすんだ赤みの黄	7YR 5.5/4	はと(鳩)羽色	暗い灰紫	2.5P 4/3.5
小麦色	くすんだ赤みの黄	8YR 7/6	しょうぶ(菖蒲)色	青みの紫	3P 4/11
パフ	くすんだ赤みの黄	8YR 6.5/5	あやめ	青みの紫	3P 4/11
こはく色(又はアンバー)	くすんだ赤みの黄	8YR 5.5/6.5	江戸紫	くすんだ青みの紫	3P 3.5/7
金茶	こい赤みの黄	9YR 5.5/10	ラベンダー	くすんだ青みの紫	5P 6/5
卵色	うすい赤みの黄	10YR 8/7.5	モーブ	青みの紫	5P 4.5/9.5
山吹色	赤みの黄	10YR 7.5/13	ライラック	うすい紫	6P 7/6
ベージュ	明るい灰黄	10YR 7/2.5	オーキッド	うすい紫	7.5P 7/6
黄土色(又はイエローオカー)	くすんだ赤みの黄	10YR 6/7.5	古代紫	くすんだ紫	7.5P 4/6
セピア	ごく暗い黄	10YR 2.5/2	なす(茄子)紺	暗い灰紫	7.5P 2.5/2.5
カーキ	暗い赤みの黄	1Y 5/5.5	紫紺	暗い紫	8P 2/4
ひまわり色	あざやかな黄	2Y 8/14	ぼたん(牡丹)色	あざやかな赤紫	3RP 5/14
うこん(鬱金)色	黄	2Y 7.5/12	マゼンタ	あざやかな赤紫	6RP 4/14
フロント	くすんだ黄	2Y 7.5/7	とさ(鞠)色	うすい紫みの赤	7RP 7.5/8
象牙(牙)色(又はアイボリー)	明るい灰黄	2.5Y 8.5/1.5	つつし色	あざやかな紫みの赤	7RP 5/13
レダホーン色	くすんだ黄	2.5Y 8/4	桜色	ごくうすい赤	10RP 9/2.5
ノーブルスイエロー	くすんだ黄	2.5Y 8/7.5	ローズピンク	うすい紫みの赤	10RP 7/8
砂色	灰黄	2.5Y 7.5/2	ワインレッド	こい赤紫	10RP 3/9
クローマイエロー	黄	3Y 8/12	バーガンディー	ごく暗い赤	10RP 2/2.5
からし(芥子)色	くすんだ黄	3Y 7/6	スノーホワイト	白	N 9.5
クリーム色	明るい灰黄	5Y 8.5/3.5	銀ねず(又はシルバードレイ)	灰色	N 9.5
たんぼほ色	あざやかな黄	5Y 8/14	ローズグレイ	灰赤	2.5R 5.5/1
うぐいす(菘)茶	暗い灰黄	5Y 4/3.5	茶ねずみ(鼠)	灰黄	5YR 6/1
甲黄(ちゅうき)	緑みの黄	7Y 8.5/11	きな(生成)り色	黄みの白	10YR 9/1
カナリヤ色	緑みの黄	7Y 8.5/10	パールグレイ	灰黄	2.5YR 6.5/5.5
オリーフドラフ	暗い灰黄	7.5Y 4/2	利休ねずみ(鼠)	灰緑	2.5G 5/1
オリーフ	暗い緑みの黄	7.5Y 3.5/4	スカイグレイ	明るい灰青	7.5B 7.5/5.5
レモン色	緑みの黄	8Y 8/12	鉛色	灰青	2.5PB 5/1
ひわ(緋)色	黄緑	1GY 7.5/8	スレートグレイ	暗い灰青	2.5PB 3.5/5.5
うぐいす(菘)色	暗い灰黄緑	1GY 4.5/3.5	チャコールグレイ	暗い灰紫	5P 3/1
まっ(抹茶)茶色	くすんだ黄緑	2GY 7.5/4	スチールグレイ	灰紫	5P 4.5/1
こけ(苔)色	暗い黄緑	2.5GY 5/5	ねずみ(鼠)色	灰色	N 5.5
オリーフグリーン	暗い灰黄緑	2.5GY 3.5/3	黒	黒	N 2
若草色	黄緑	3GY 7/10	金色	金色	
ちえぎ(萌木, 萌黄)	黄緑	4GY 6.5/9	銀色	銀色	
リーフグリーン	くすんだ黄緑	5GY 6/7	ブロンズ色	ブロンズ色	